

令和4年度 ほくと・ななえ 医療・介護連携多職種研修会
「地域包括ケアシステムにおける病院の機能と役割について」
アンケート集計結果

n 43 = (回収率 55.8%)

1. 所属機関をお聞かせください。(複数回答可)

・医療機関	7	(16.3%)
・介護機関	32	(74.4%)
・教育機関	0	(0.0%)
・その他	4	(9.3%)
合計	43	(100.0%)

2. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・医師	0	(0.0%)
・歯科医師	0	(0.0%)
・薬剤師	9	(11.8%)
・保健師	0	(0.0%)
・看護師	2	(2.6%)
・ケアマネジャー	48	(63.2%)
・相談員	3	(3.9%)
・介護職員	4	(5.3%)
・歯科衛生士	0	(0.0%)
・栄養士	0	(0.0%)
・リハビリスタッフ	2	(2.6%)
・柔道整復師	0	(0.0%)
・鍼灸師・マッサージ師	0	(0.0%)
・福祉用具関連	2	(2.6%)
・事務員	3	(3.9%)
・教員	3	(3.9%)
・学生	0	(0.0%)
・その他	3	(3.9%)

社会福祉士 2名・救急救命士 1名

合計 76 (100.0%)

3. 今回の研修はいかがでしたか？

・よかった	42	(28.2%)
・どちらともいえない	1	(0.7%)
・よくなかった	0	(0.0%)
・無回答	0	(0.0%)

【ご意見等】

- ・病院とのやりとりが多くあるので改めて病院の機能や役割について話が聞けて勉強になりました。
- ・今後、MSWとの連携ややり取りが増えてくる中で、病院側が思い描いている在宅生活像とケアマネが考えている生活像が違う事もあるので、そこをいかに共有していきながらすり合わせできるのかが重要になると思います。
- ・病床機能ごとや加算種類別の病院一覧、回復期リハビリテーション病棟の対象病名と入院日数、医療療養病棟の対象となる医療区分、入退院支援のケースの関わりなど、詳しく教えて頂き大変参考になりました。病院の機能も深く理解できました。資料も分かりやすく、これまでわからないまま流していた部分も根拠や用語理解もできましたので、大切に大いに活用させて頂きたいと思いました。
- ・自宅での看取りが増えていますが独居の方の場合、介護サービスでの支援は困難となっています。訪問診療等、多くの支援を受けても現状家族の支援が必要です。この点での病院との温度差が感じられます。
- ・独居の方でも介護保険を利用すれば確かに在宅での生活も可能ですが、地域によってはその地域ではサービス提供ができないという事が実際にあります。その一方で本人、主介護者が在宅生活を希望していても、対象者の医療依存度や高齢者のみの世帯、障害や病気を持った家族や小さなお子さんが同居している等が重なった場合に家族構成によっては不可能な事もありました。以前あった事例ですが、医療機関の方から、どの方面から見ても在宅で生活できるような状態ではなく、本人、家族に言っても理解してもらえなかったのが、説得の為に在宅介護の現状をより知るケアマネジャーの力を借りたいと、MSWから逆の相談を受けたこともありました。もちろん、医療機関からの情報、利用者、家族との面談を通じて、くまなく分析した結果の判断であります。私たちケアマネは在宅介護に向けて調整するのはもちろんですが、どう見ても在宅介護が無理である事を理解しようとしないう、利用者、家族に対して、現実を突きつける役割も大切であると、その時は思いました。そういった場合も力をお貸ししますので、ご相談いただければと思います。
- ・病院について学ぶことが出来て良かったが、制度やあり方についてだったので仕方ないが実践や場面が切り替わるところが少なく活字ばかりで単調だったので途中飽きてしまい巻き戻しては見るを何度も繰り返した。もう少し動画にメリハリがあるととても見やすいです。でも研修を開いて下さりありがとうございます。
- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・病床機能別の分類や地域包括病棟、回復期リハビリ病棟、療養病棟等それぞれの役割や病名別の入院期間等が明記されており、わかりやすかったです。
- ・訪問診療を実施している医療機関が少なすぎると思います。なかなか見つけられず、見つかったも柔軟に往診して頂けないことが有ると感じています。
- ・MSWとケアマネのかかわり方、MSWに期待される部分についても大変共感できる内容でした。
- ・病院や包括の施設基準など知れたよかった。
- ・病棟の違いやどこに何があるかを知ることができた。
- ・病院との連携がとりやすくなった
- ・医療との連携は重要とされますが、病院により違いがあり、連絡を頂けない時も多々ありました。現場とNSWの見解の違いから説明内容も変わります。今回の研修は得る事が多く、ケアマネとしての役割を再度確認することが出来ました。
- ・体制などを具体的な病院名を出してくれていたのが、とてもわかりやすかったです。無料で受けさせてもらって申し訳なく思いました。
- ・医療の病院の役割や調整の仕方をわかることができた。

- ・ 今後、自宅死という希望があっても、実際、老々介護や独居や子供がいない等の問題があります。各専門職が共働し、本人が希望する自宅死を支えていくことが出来るようになっていくことを願います。
- ・ MSWの方の役割は大変に大きく、患者側からすると拠り所となり、重要なポジションであると思います。手厚い体制を受けられれば安心できますが、そこまでたどり着いていない患者・家族の窓口
- ・ いつも、情報提供をくださりありがとうございます。子育て中なので集合研修になかなか行けないのですが、Zoom開催があるので、とてもありがたいです。

*多数同意あり、まとめて掲載しております。

4. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

- ・ 医療連携の続編が聞きたいです。
- ・ 地域包括ケアシステムの一部にACP（DNAR）があると思いますが、消防救急との連携も非常に重要であり、患者さんの充実した最期を迎えるにあたり、現在の消防法では消防独自である程度のマニュアルは作成可能ですが、看取りとなると消防だけでは寄り添えない部分が多いです。研修会もそうですが、実際に南渡島圏としてメディカルコントロールを巻き込んだ議論やその先の体制作りを考えていただきたいと思います。
- ・ 訪問介護の重要性などやってほしいです。
- ・ 施設の紹介
- ・ 訪問リハビリについて
- ・ 自分以外の職種を理解するために、今回のような研修をどんどん開いてほしい。
- ・ 訪問看護のしくみについて知りたいです。※ガン末期など、医療保険で適用できるものは介護保険でも適用できるのか、緊急を要するものであれば、カンファレンスがなくても入れるのかなど詳しい制度を知りたいです。
- ・ 地域で行っているボランティア事業
- ・ 発達障害や引きこもりなどの取り組みを是非お願いします。
- ・ 今後も多職種の連携に関しての勉強をさせていただけるとありがたいです。

5. ご質問がございましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。